

# GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

## 1. 早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類	産業競争力基盤強化商品
	対象	電気自動車等
b.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	次世代型太陽電池の開発

## 2. 具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	電気自動車等
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	当社でリースする社用車について、更新時にEVをはじめとする環境対応車に積極的に切り替えていくことで、環境対応車の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

b.	次世代型太陽電池の開発
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	当社はGXの早期実現に向け、太陽光発電所の建設/施工事業において、次世代型太陽電池を積極的に調達・活用するとともに、次世代型太陽電池の早期社会実装により、サプライチェーン全体の環境負荷低減に貢献します。

## 3. サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進し、GXを実現するため、物流事業における、建材のリファビッシュや、太陽光発電事業における事業パートナーと連携した太陽光パネルのリサイクルを進め、サプライチェーンにおける資源価値の最大化を目指して、取り組んでまいります。

## 4. 温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

a.	電気自動車等
削減対象	Scope 1 + 2
目標年度	2030年度
基準年度	2024年度
目標削減率	30%
削減目標における選択対象の位置づけ	当社が使用する社用車について、ガソリン車を電気自動車を含むクリーンエネルギー自動車に切り替えることにより、スコープ1・2の削減に直接的に寄与します。

b.	次世代型太陽電池の開発
削減対象	Scope 3
目標年度	2030年度
基準年度	2024年度
目標削減率	30%
削減目標における選択対象の位置づけ	太陽光発電所の建設/施工において、次世代型太陽電池を一定量採用することは、カテゴリ1/4/12の排出削減を実現し、スコープ3における排出削減率30% (2030年度目標) に直接的に寄与します。 ※カテゴリ1：シリコン系太陽電池に比べて、製造時のエネルギー消費量が少ない ※カテゴリ4：シリコン系太陽電池に比べて、軽量で輸送時のエネルギー消費量が少ない ※カテゴリ12：リサイクルが容易であり、廃棄時の環境負荷が低い

#### 5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

a.	電気自動車等
目標年度	2030年度
定量的目標	社有車のEV比率を50%以上にする

選択対象に関する定量的目標の概要	2030年度までに社用ガソリン車のうち、50%以上をEVに切り替えます。
------------------	--------------------------------------

b.	次世代型太陽電池の開発
目標年度	2030年度
定量的目標	ペロブスカイト太陽電池を活用した発電所の施工実績200件以上
選択対象に関する定量的目標の概要	2025年度よりペロブスカイト太陽電池の社会実装に向けた実証実験に参画するとともに、2030年度までにペロブスカイト太陽電池を用いた太陽光発電所の施工実績を200件以上に積み上げることで、次世代型太陽電池の社会実装を推進してまいります。 ※ペロブスカイト太陽電池の社会実装の進捗次第では、目標値の見直しを行う前提となります。

## 6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲	自社単体
------	------

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

2025/7/8

京セラコミュニケーションシステム株式会社  
サステナビリティ&ストラテジー推進室 伊藤 大輔